

第6回アカデミック・フォーラム
2022年3月5日(土) オンライン開催

東アジアにおける企業間国際分業 —自動車産業のEV化をめぐって—

趣旨

主に自動車産業を対象にして、国際生産ネットワークないしサプライチェーンについての現状と将来の見通しを議論することを一つの課題とする。自動車産業におけるEV化やCASE*といった競争の新しい局面は、さらに自動車産業を超えて、IT企業・ソフトウェア企業や半導体・電気機器産業など幅広い産業を巻き込もうとしている。そこから新しい企業間関係やプラットフォーム・ビジネスが生み出されつつあり、そのような企業間関係からどのような業種や企業が新たな競争優位を勝ち取っていくのか、大きな局面展開あるいは新しい次元の産業の創出につながっていく可能性もある。

しかし今また、米中のデカップリングという大きな環境変化の中で企業間の競争関係は複雑化している。このような厳しい対立と競争は、自動車産業のEV化の現状と将来について様々な角度から検討していくことを必要としている。国際生産ネットワークやサプライチェーンの形成にも更なる変化が求められる可能性もある。

そして、日本の数少なくなったキーインダストリーの自動車産業が、電気機器産業や半導体産業のようにその競争的地位を低下させてしまうとすれば、日本経済へのインパクトは計り知れない。fun to driveの「良いクルマ」さえ作れば顧客は買ってくれる、自動車産業は安泰だ、というようなモノづくりの考え方だけでは情報化・IT時代の競争から取り残されていく可能性もある。

このような課題についてそれぞれの専門家が縦横に議論を展開することが今回のアカデミック・フォーラムの趣旨であり、議論の課題である。

(*C=Connected, 接続性、A=Autonomous, 自動運転、S=Shared & Services, シェアリング&サービス、E=Electric, 電動化)

アジア経営学会 小阪隆秀
(日本大学名誉教授、当連合理事)

主催：日本経済学会連合

後援学会：アジア経営学会、日本比較経営学会、産業学会、日本経営学会、
国際ビジネス研究学会